

市原発サーキュラーエコノミーの創造

市原市は、令和 3 年 5 月 21 日、千葉県内の自治体として初めて内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されるとともに、「SDGs 未来都市」の中で特に先導的な取組である「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。この「自治体 SDGs モデル事業」の柱の一つに「市原発サーキュラーエコノミー（循環社会）の創造」があり、多様なステークホルダーとの連携を通し、地域における自律的好循環を目指しています。

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237233ece4651c88c1808f>

食品トレーを「捨てる」から「生かす」へ

市原市は廃棄物の減量及び再資源化をさらに推進するため、デンカ株式会社・東洋スチレン株式会社・市原市の三者で、ポリスチレン（PS）のケミカルリサイクルに関する事業連携協定を令和 6 年 5 月 24 日に締結しました。市内で回収された使用済み PS 製品を、市内にある東洋スチレン(株)のケミカルリサイクルプラントで再資源化し、市内で再び食品トレーなどを生まれ変わっています。

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=647536eebf834906c3ebe50e>

参照：「東洋スチレン(株)ケミカルリサイクル訪問」レポート

<https://www.pprc.gr.jp/puratto-diary/index.html#001>

回収対象は、発泡白色トレー、発泡色付きトレー、発泡スチロール（緩衝材・保冷箱）、納豆容器（紙製は対象外）、乳酸菌飲料容器（キャップ付き容器は対象外）の 5 品目。

回収場所は市内 13 か所。

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=647536eebf834906c3ebe50e>



5 品目に限定した理由は、見た目対象品目であるかどうかの分かり易さ、排出される量を考慮したとのことです。

回収された PS 製容器包装

今回、回収拠点の一つである市原市役所の集積所を見学させていただきました。プラッと探検隊員は主に食品や洗剤、容器包装製造企業の社員で、それぞれの企業で資源循環に関連する業務を推進していることから、市民の方々がどの程度、分別排出に協力して下さるかについて強い関心を持っていました。予想よりもきれいでたくさんの使用済みの PS 製品が集まっており、特に乳酸菌飲料容器や納豆容器は一度に複数個まとめて出してくださる場合が多く、また納豆容器はきれいに洗ってあるとのことでした。市民の皆様の環境に対する意識の高さに感心しました。



市原市役所の集積所 (写真：市原市役所提供)



市原市役所の集積所 (写真：市原市役所提供)



辰巳台支所の集積所 (写真：市原市役所提供)



市津支所の集積所 (写真：市原市役所提供)

プラッと探検隊員はそれぞれの所属企業の中で、循環型社会の実現に向け、何をすべきかを考える貴重な機会となりました。市原市役所の皆様に心よりお礼申し上げます。